

清水 脩 先生

三十三回忌法要

ならびに記念演奏会



2018年12月9日

於：難波別院本堂

午後3時開式

真宗大谷派難波別院・大阪御堂合唱団
大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

共催

ご挨拶

大阪御堂合唱団は「合唱芸術を通じて仏教音楽の大成・普及に貢献する」ことを目的として1962(昭和37)年に設立されました。以来、真宗のみ教えの尊さを仏教讃歌という美しい形で伝え続けております。合唱団設立にあたって、設立趣旨に込められた大切な願いを形にするべく、日本を代表する作曲家である清水脩先生を大阪御堂合唱団の特別指揮者兼顧問としてお迎えできたことは、当時の合唱団関係各位の深い願いと熱意、そして真に有難き仏縁によるものであったと確信しております。

本日三十三回忌をお迎えするにあたり、あらためて清水脩先生のご遺徳を偲び、その偉大な功績を顕彰しつつ、この法要ならびに記念演奏会が新たな仏法聴聞の場として開かれ、仏教讃歌の素晴らしさをより広く伝える大きな機縁となること深く願います。

真宗大谷派難波別院 輪番・大阪御堂合唱団 理事長 宮浦 一郎

大阪御堂合唱団は1962年11月に設立された混声合唱団です。この設立の特別指揮者兼顧問としてご指導頂いたのが清水脩先生であります。大阪御堂合唱団は、この設立以降仏教讃歌を歌う合唱団としての活動を展開して参りました。

清水脩先生は多くの仏教讃歌の作曲をされ、その多くが現在も当団に歌い継がれています。本日演奏される「弥陀の名号をとえつつ」は、大阪御堂合唱団第1回定期演奏会のために作曲されたものであります。

本日は清水脩先生を偲びながら、これらの仏教讃歌を歌いたいと思います。

大阪御堂合唱団

6年前の春、清水脩先輩の生家佛足寺を訪問された故山口慶四郎大阪外大名誉教授(グリークラブ顧問)が清水脩先輩の墓前で歌わせていただいたらどうかという提案をされました。それがきっかけとなり清水家、稲垣家、難波別院、大阪御堂合唱団のご協力を賜り本日このような機会に参加出来る事を有難く思っております。我々グリークラブは第5代指揮者であった清水先輩が昭和23~24年に作曲された男声合唱の古典的名曲「月光とピエロ」全5曲を現役、OB合唱団を通じて25回の演奏会で歌ってまいりました。これからも他の清水先輩作曲男声合唱曲と合わせて可能な限り永く歌い継いでいく所存であります。2021年には創部95周年、2026年には創部100周年記念演奏会を大阪と東京で開催する予定です。

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

今回、清水脩氏の33回忌法要および記念演奏会を開催していただきましてまことに感無量でございます。

外大での脩氏は、グリークラブの楽譜係を経て指揮者となったことが氏の音楽人生の出発点でありました。一方、外大卒業3年位後に御堂合唱団の前身の大阪混声合唱団を私の父と共に立ち上げました。このようにとても深いご縁の両合唱団の献歌を頂きましたらこれ以上ない33回忌法要となります。

また、難波別院のご輪番、ならびに職員の方々、皆様のご尽力を深く感謝申し上げます。ご多用中のところをご参詣いただきました皆様には本当にありがとうございます。終了後の懇親会までご参加下さいますようお願いいたします。

大阪教区第2組 佛足寺住職 清水真一

プログラム

- 1 開式の辞 難波別院輪番・大阪御堂合唱団理事長 宮浦 一郎
大阪教区第2組 佛足寺住職 清水 眞一
- 2 三十三回忌法要 〈法要導師 難波別院輪番 宮浦 一郎〉
法要次第 伽陀 先請彌陀
表白
御経 佛説阿彌陀經
和讃 彌陀の名号となへつつ
回向 願以此功德
- 3 記念演奏会 ** 全曲 清水脩作曲 **
全員合唱〈指揮 和田裕之〉
礼讃「無量寿」 親鸞聖人正信偈より
大阪御堂合唱団 〈指揮 和田浩之、伴奏 中野美子〉
「彌陀の名号となえつつ」 親鸞聖人和讃
「春さり来れば」 良 寛 詞
「聖の里」 常盤大定 作詞
「きみはいま」 長田恒雄 作詞
「成道讃歌」 長田恒雄 作詞
大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団 〈指揮 林 誠〉
男声合唱組曲「月光とピエロ」 堀口大學作詞
月夜、秋のピエロ、ピエロ、ピエロの嘆き、月光とピエロとピエレットの唐草模様
全員合唱 〈指揮 林 誠〉
「ともに手を取り」 清水脩 作詞
全員合唱 〈指揮 和田裕之、伴奏 中野美子〉
「恩徳讃Ⅰ」 親鸞聖人和讃
- 4 清水家・稲垣家共催 懇親会（於 同朋会館講堂）
ご挨拶 大阪教区第17組 徳因寺前任職・大阪御堂合唱団理事 稲垣 俊一

清水 脩 プロフィール

1911年（明治44年）大阪市天王寺区の真宗大谷派「佛足寺」で生まれる。小児期に得度。父親が四天王寺舞楽の楽人であった関係で幼少時は稚児舞を踊っていた。八尾中学を経て、大阪外国語学校フランス語部入学、大阪外語時代はグリークラブで第5代指揮者を務めた（1931年）。

大阪外語卒業後、東京音楽学校（現東京芸術大学）で作曲を学ぶ。最初の受賞作は管弦楽「花に寄せたる舞踏組曲」（1939年）。戦後直ぐ全日本合唱連盟創設に参画（1946年）。男声合唱組曲「月光とピエロ」の中の「秋のピエロ」は、第1回全日本合唱コンクールの課題曲（男声）（1948年）。1950年～1953年、東京男声合唱団の指揮者を務めた後は作曲活動が主体となった。出自の関係もあり「恩徳讃」（Ⅰ）など多くの仏教讃歌を作曲。本日演奏される「彌陀の名号となえつつ」は大阪御堂合唱団の第1回定演（1963年）のために作曲されたものである。また和製オペラの創作にも力を注ぎ、代表作の「修禅寺物語」を初め十指に余る作品がある。カワイ楽譜の社長、全日本合唱連盟理事長、日本合唱協会代表なども歴任。第1回芸術選奨（1951年）、芸術祭管弦楽曲部門第1回尾高賞（1953年）、毎日音楽祭賞、舞踊ペンクラブ賞、紫綬褒章（1975年）、勲四等旭日小授賞（1982年）などを受賞。若い時には得意の語学を生かした翻訳、訳詩なども多くある。訳詩者としてのペンネームは龍田和夫。1986年（昭和61年）逝去。

大阪御堂合唱団

ソプラノ	伊藤 睦子 西田 麻美	川谷 勝子	河野 京子	木本 フミ子	鳥居 ふくみ
アルト	石原 まゆみ 梶原 礼子 野村 美都子	植村 早苗 阪本 隆子 森本 貞子	川村 裕子 周野 朋子	北野 純子 武井 久美子	北端 盛子 立石 裕子
テナー	岡本 宏 福田 真之	加藤 直樹	門脇 光也	木本 昇三	田辺 義隆
バス	太田 一忠	北端 信次	福井 康司	松矢 精二	丸山 源一郎

指揮者 和田 裕之：大谷大学文学部真宗学科卒、大阪音楽大学短期大学部卒。現在、布施混声合唱団指揮者、浄土真宗大谷派大阪教区第17組恩教寺住職、東大阪市立盾津中学校校長、東大阪市立中学校音楽教育研究会会長、大阪御堂合唱団理事。2016年から大阪御堂合唱団指揮者として仏教讃歌の普及にご尽力いただいている。

ピアニスト 中野 美子：大阪音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業、同大学院修了。日本演奏連盟、神戸音楽家協会、各会員。

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

トップテナー	粟津 重光 (C) 上田 哲也 (G) 小谷 倍敏 (C) 橋上 純二 (C) 山田 良治 (C)	五十嵐 強 (東) 小竹 正幸 (大) 永谷 勉 (東) 保川 一治 (東) 雪永 重夫 (C)	石川 太一 (賛) 菅 孝三 (C) 柳楽 行雄 (大) 矢野 勇志 (賛)	伊東 昭廣 (名) 北村 照夫 (G) 西村 信勝 (東) 山下 均 (大)
セカンドテナー	加藤 直樹 (大) 鈴木 惟司 (大) 永山 隆 (大) 渡邊 純也 (C)	紙谷 敬治 (大) 赤城 一字 (東) 松岡 一仁 (大)	小林 卓郎 (名) 瀬戸家 惇 (C) 柳沢 長四郎 (大)	庄子 正弘 (C) 瀧尻 敏彦 (C) 山下 輝夫 (G)
バリトン	岩城 冬馬 (C) 小笠原 肇 (名) 河盛 龍三 (大) 中村 邦雄 (G) 馬場 広隆 (C)	鵜飼 茂 (大) 垣内 明夫 (C) 岸田 勝昭 (大) 西川 哲朗 (東) 浜崎 慎吾 (東)	内原 裕一郎 (C) 梶江 靖史 (大) 佐藤 彰宏 (賛) 西山 恭介 (大) 正木 啓 (名)	大西 昌三 (大) 河原 敬 (G) 新出 武雄 (東) 直場 徳宥 (大) 山本 明 (C)
バス	朝山 宏 (C) 新谷 昭一 (大) 本多 定男 (C) 八木 哲夫 (大) 米野 勝 (東)	伊藤 道彦 (G) 村主 寧民 (大) 真鍋 一史 (東) 山口 伸 (東)	宇都宮 靖 (C) 樽井 一仁 (東) 南 雄次 (東) 山口 壮 (G)	片川 徳明 (大) 中西 純三 (C) 森 滋 (大) 山本 邦博 (G)

(大) 大阪、(東) 東京、(名) 名古屋、(G) 一般グリーOB、(C) 賛助 コールシャンテ、(賛) 一般賛助

指揮者 林 誠：三重県松坂市出身、大阪音楽大学声楽学科卒、同大学院修了。1971年日伊声楽コンクールソシエナ大賞、1976年大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞、1979年再び大阪文化祭賞を受賞。1981年には、東京で創立100周年のために来日した小澤征爾指揮ボストン交響楽団の第九公演にソリストとして出演。1982年東京、大阪でのリサイタルに対し、芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。関西歌劇団常務理事、日本演奏家連盟会員、大阪音楽大学名誉教授。1973年から大阪外国語大学グリークラブのボイストレーナー、OB合唱団設立後も引き続き指揮、ご指導いただいている。